

令和4年度病害虫発生予報第2号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち） イネミズゾウムシ	並 やや多	並 やや多
トマト	コナジラミ類（防除情報第2号）	やや多	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（G. cingulata） ハダニ類	少 並 やや多	少 並 やや多
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	少 やや多 － やや少 並 －	少 やや多 並 やや少 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシマルカイガラムシ ナシヒメシンクイ	少 少 並 並	少 少 並 並
なし	黒星病 アブラムシ類	並 少	並 少
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ （注意報第1号） チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ カンザワハダニ	やや多 並 やや多 多 やや少 並 やや少	やや多 並 やや多 多 やや少 並 やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（37筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

- イ 5月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 5月前期の巡回調査（37筆）の結果、食害株率は30.0%（6.9%）、食害発生圃場率は81.1%（40.9%）、株当たり寄生成虫数は0.0頭（0.0頭）であり、一部多発圃場がみられた。
- イ 5月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、食害株率は82.0%（39.8%）、成虫の寄生株率は2.0%（3.3%）、株当たり寄生成虫数は0.0頭（0.0頭）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
- 食害の発生が多い圃場では、生育抑制や幼虫による根の食害の恐れがあるので薬剤散布を行う。

トマト

1. コナジラミ類

令和4年5月18日付け**病害虫発生予察防除情報第2号**による。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠
- 5月前期の巡回調査（29筆）の結果、発生株率は0.0%（0.5%）、発生圃場率は3.5%（2.9%）であった。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
- ア 5月前期の巡回調査（29筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- イ 病害虫防除所への診断依頼で、5月13日持ち込み分のランナーにおいて発生が認められた。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実にを行う。また、育苗床及び周囲の除草を徹底するなど、環境整備に努める。また、雨よけ育苗施設を有する圃場は積極的に被覆を行い、降雨等による病原菌の跳ね上がりを防止する。
- イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗も処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置せず適切に処分する。
- ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤をローテーション散布する。

3. ハダニ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
- 5月前期の巡回調査（29筆）の結果、寄生株率は4.9%（2.3%）、発生圃場率は37.9%（24.0%）で一部多発生圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 土着天敵の活動が活発になる時期であり、天敵への影響が大きい有機リン系・カーバメート系・合成ピレスロイド系薬剤の使用は避け、気門封鎖剤等の天敵に影響の少ない薬剤を積極的に使用する。なお、気門封鎖剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。
- イ 薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和4年長崎県病害虫防除基準P216～219の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- エ 親株切り離し後は、苗の間隔を開け薬剤防除を徹底する。

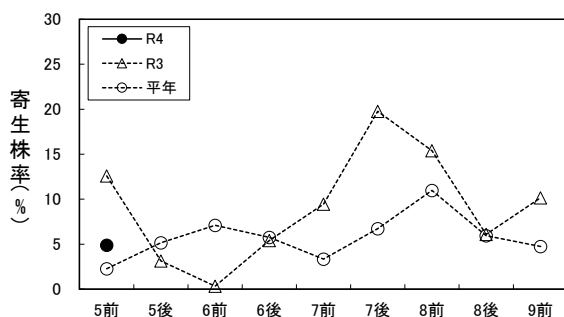


図 ハダニ類 寄生株率の推移

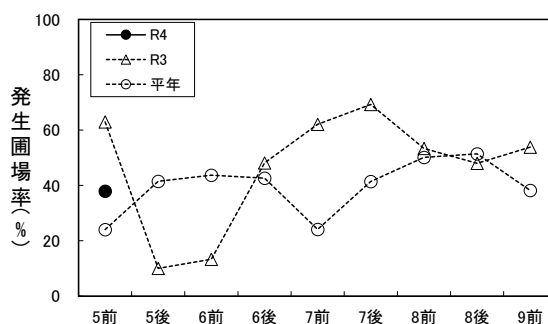


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

アスパラガス

1. アザミウマ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所）は12.7頭（9.0頭）、発生圃場率は58.3%（72.4%）で一部多発生圃場が見られた。

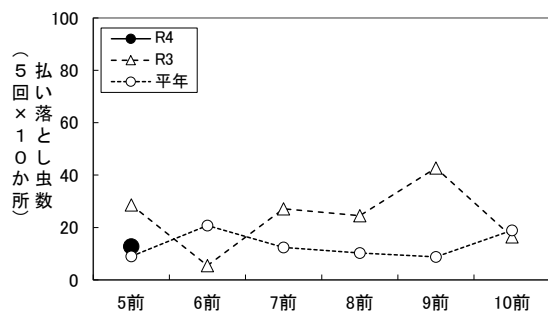


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

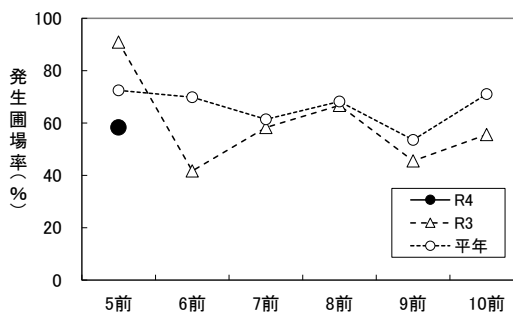


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. そうか病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率0.0

％、発生圃場率3.5％)。

2. かいよう病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.3％(0.0％)、発生圃場率は11.1％(2.1％)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。

3. 黒点病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1か月の降水量は、平年並の見込みである。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 落弁期以降、幼果期の初期から感染が始まる。気象の推移に留意し、予防を念頭に薬剤散布を実施する。

イ 枯れ枝は伝染源となるので見つけ次第除去し、圃場外へ持ち出す。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は0.3％(2.3％)、発生圃場率は5.6％(22.9％)であった。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。

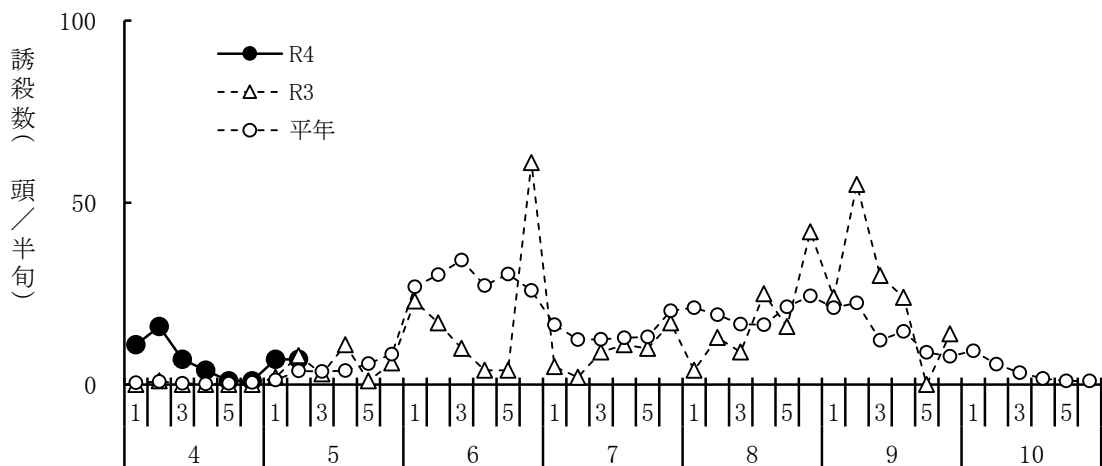


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2～3世代成虫の発生時期は下表のとおりと予測される。

イ 表の発生ピーク予測日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

ウ 発生が多い圃場では1果当たりの寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

エ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それ

らでの発生にも注意する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	口之津	平戸
第2世代	6/2	6/3	6/4	6/14
〃 (平年)	6/7	6/9	6/9	6/20
〃 (前年)	5/24	5/26	5/28	6/7
第3世代	6/25	6/26	6/27	7/7
〃 (平年)	6/30	7/1	7/1	7/12
〃 (前年)	6/18	6/19	6/22	7/1
標高(m)	27	4	10	58

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2022年5月16日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

6. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

令和2年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査(15筆)の結果、ヤノネカイガラムシの寄生果は認めなかった(0.0%)。

- (3) 防除上注意すべき事項

下表に示した初発生予測に基づき、使用する薬剤に応じて適期に防除する。

表 ヤノネカイガラムシ初発生の予測日

地点	長崎	大村	島原	口之津	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	巖原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/5	5/6	5/5	5/6	5/5	5/8	5/7	5/5	5/8	5/9	5/6
前年予測日	5/2	5/4	5/4	5/3	5/3	5/5	5/5	5/2	5/5	5/9	5/8
IGR剤防除日	5/30	5/31	5/30	5/31	5/30	6/2	6/1	5/30	6/2	6/3	5/31
有機リン剤防除日	6/14	6/15	6/14	6/15	6/14	6/17	6/16	6/14	6/17	6/18	6/15
標高(m)	27	3	9	10	4	5	58	25	26	4	27

注1:方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2:初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日~4月30日)を用いて算出し、防除適期はIGR剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。

注3:同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.2%、発生圃場率7.5%)。

2. 灰斑病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発病枝葉率0.3%、発生圃場率12.5%）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 収穫終了後以降、せん定作業時の残渣、罹病した落葉は圃場外に持ち出し、圃内の菌密度を低減する。
- イ せん定後にカスガマイシン・銅水和剤を散布し、感染防止を図る。

3. ナシマルカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 5月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- イ 有効積算温度に基づくシミュレーションの結果によると、露地びわにおける第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、県内各地で平年より6日程度早い（表）。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるナシマルカイガラムシ第1世代1齢幼虫の本年の発生ピーク予測日

地点	長崎	口之津
発生ピーク予測日(本年)	5/18	5/20
〃 (前年)	5/15	5/17
〃 (平年)	5/24	5/26
標高(m)	27	10

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、5月16日までは観測値を、それ以降は平年値を用いた。

注2:前年、平年の発生ピーク予測日はそれぞれ2021年、平年の気象庁アメダス観測値により算出した。

(3) 防除上注意すべき事項

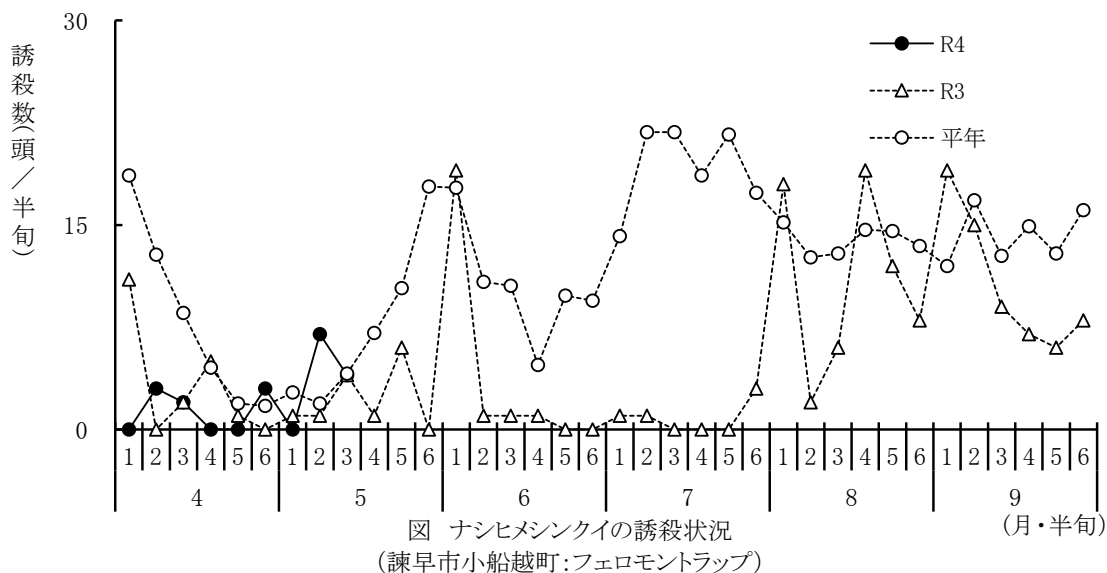
- ア 防除適期は第1世代1齢幼虫の発生ピークであるが、露地びわの収穫時期が重なるため、発生圃場では収穫終了後に速やかに防除する。
- イ 防除薬剤のうち、昆虫成長制御（IGR）剤は齢期の進んだ幼虫に対しては効果が劣るので、散布時期を逸さないよう注意する。また、マシン油乳剤は高温時の散布では薬害を生じることがあるので注意する。
- ウ 樹冠内部の枝や幹に薬液がかかるように十分量を散布する。
- エ 同一地域内の圃場でも標高や土地条件により気温が異なるため、発生時期が予測日と前後する場合があるので注意する。

4. ナシヒメシクイ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 5月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、平年並で推移している（図）。



なし

1. 黒星病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は0.7%（0.3%）、発生圃場率は16.7%（18.0%）であった。果実では発病果率は0.3%（0.2%）、発生圃場率は16.7%（16.4%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病した果そう基部、葉、果実は伝染源になるため、見つけ次第園外に持ち出し、埋没等の処分を行う。

イ 降雨により伝染するので、天候を見ながら適切に防除する。

ウ 薬剤散布に当たっては、かけむらがないよう十分量を散布し、薬液のかかりにくい園の周縁部には補完散布を行う。

エ 県内において、DMI（ステロール生合成阻害）剤に対する感受性が低下した地域が認められているため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P410～411の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（寄生新梢率1.9%、発生圃場率33.3%）。

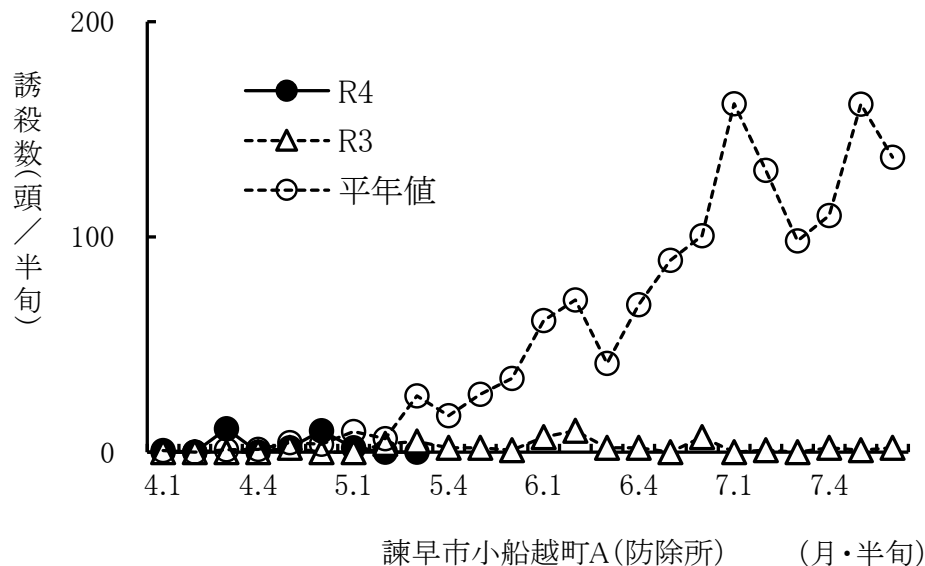
果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

フェロモントラップの誘殺量は、平年より少なく推移している（図）。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 飛来時期や飛来量は園地によって異なる場合があるので注意する。
- イ 山林に近い園地や毎年発生を認める園地などでは、見回りを徹底し、カメムシ類の飛来が認められた場合には早急に防除を行う。

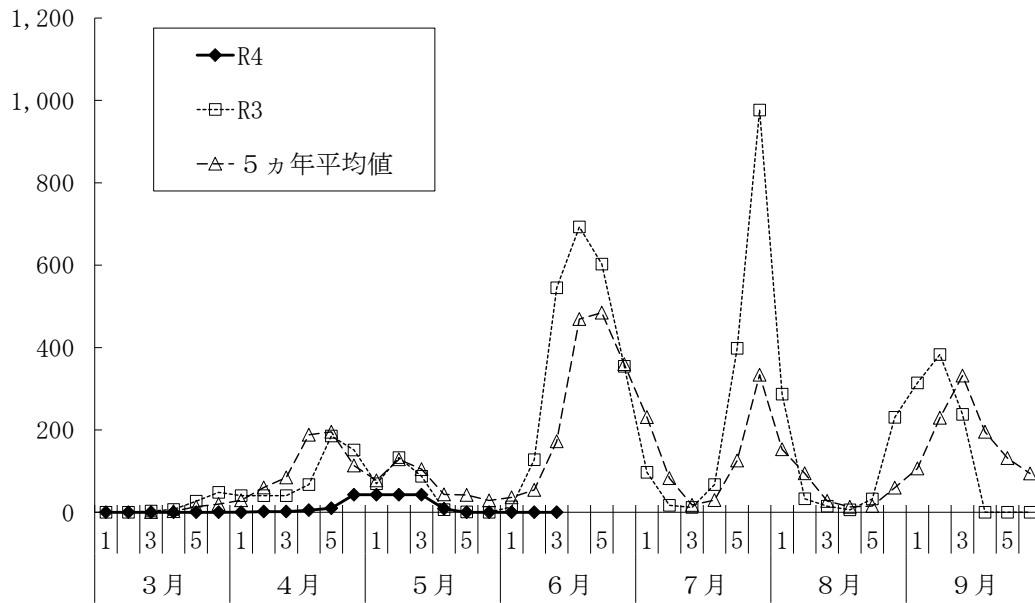
茶

1. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
5月前期の巡回調査(19筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は2.0枚(0.0枚)、発生圃場率は42.1%(1.3%)。
- (3) 防除上注意すべき事項
薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和3年長崎県病害虫防除基準P428~429の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

2. チャノコカクモンハマキ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
ア 5月前期の巡回調査(19筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.0枚(0.0枚)、発生圃場率5.3%(0.7%)であった。
イ フェロモントラップによる(農林技術開発センター茶業研究室調査)誘殺量は5か年平均値よりやや少なく推移している(図)。



3. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

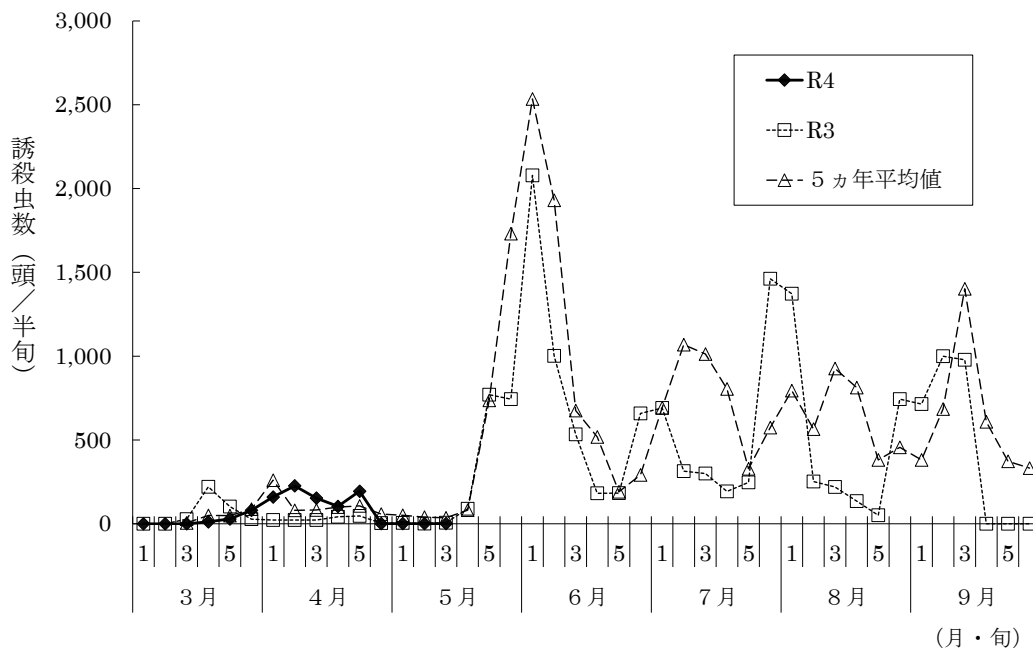
(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（19筆）の結果、1 m²当たり巻葉数は0.3枚（0.0枚）、発生圃場率は15.8%（2.1%）であった。

イ フェロモントラップによる（農林技術開発センター茶業研究室調査）誘殺量は5か年平均値並で推移している（図）。

(3) 防除上注意すべき事項

フェロモントラップにより発生消長を把握し、巻葉前に薬剤防除する。



4. チャノミドリヒメヨコバイ

令和4年5月18日付け病害虫発生予察注意報第1号による

5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は1.7頭（7.2頭）、発生圃場率は47.4%（60.3%）であった。

6. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生株率は0.5%（4.1%）、発生圃場率は26.3%（26.0%）であった。

7. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

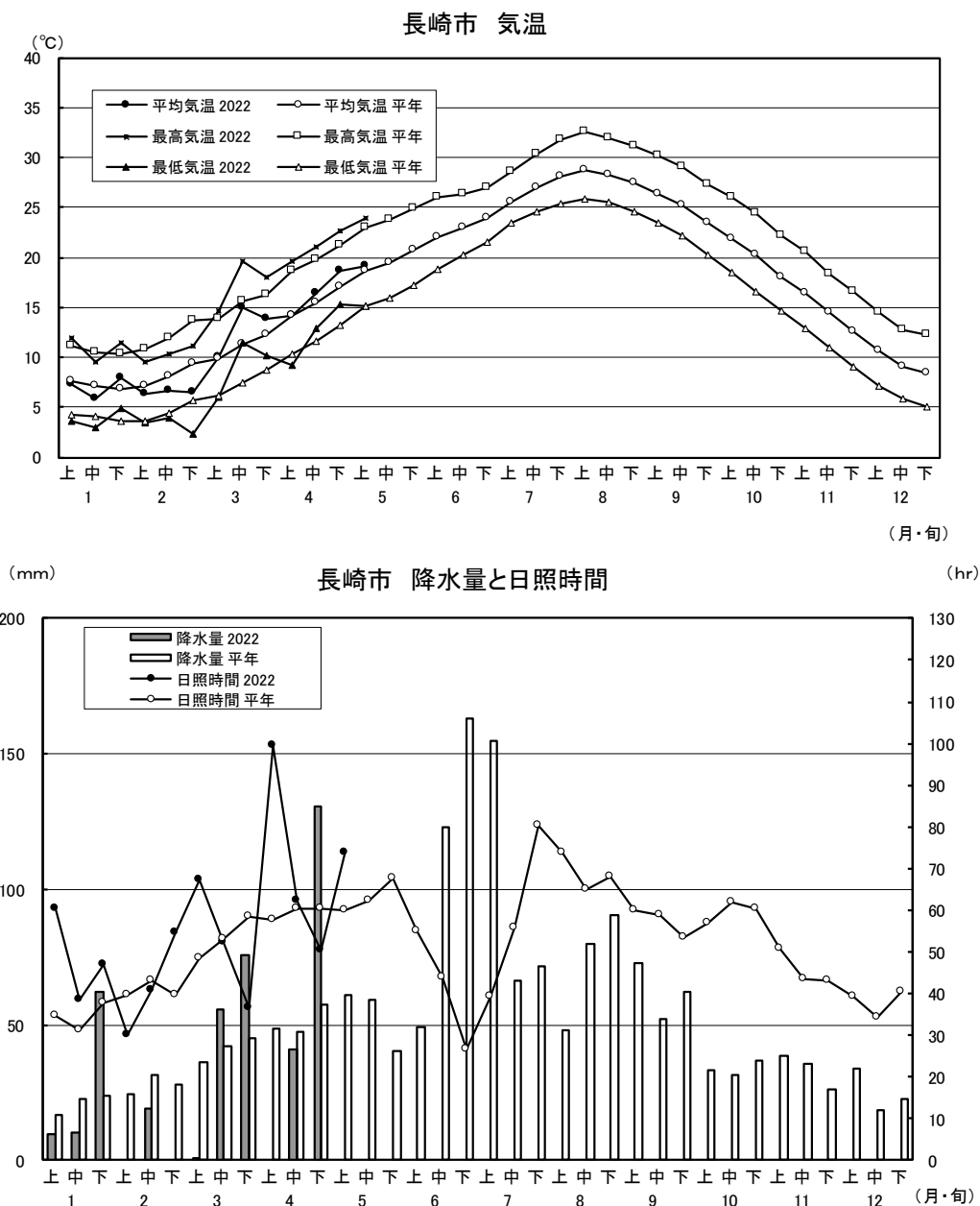
5月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は0.3%（2.3%）、発生圃場率は15.8%（31.8%）であった。

(令和4年5月12日発表 1か月予報 福岡管区气象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	30	20
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和4年の気象経過 (長崎地方气象台)



- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせ
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

